

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 30 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石川 伊織

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 信越本線・北越鉄道の創業時の列車ダイヤに関する研究	これまでに蓄積した資料から、信越本線および北越鉄道がどのような運行形態をとって、何を運んでいたのかを検討するとともに、長距離幹線鉄道と都市間鉄道と地域交通のすみ分けをヨーロッパ諸国の鉄道における実例と比較しつつ、明治・大正期の鉄道敷設法及び関連する地方鉄道に関する法律について研究した。	くびき野カレッジ第 16 期(「頸城野を走った列車」2018 年 7 月 14 日)において口頭発表を行った。
【くびき文化に関係しない研究】 2014 年度科学研究費基盤研究 (B) 一般研究 「ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究」(2014 年 4 月～2018 年 3 月)を 2019 年 3 月まで延長して研究を継続した。	2017 年度末に予定していた報告書の刊行が諸般の事情で年度末に間に合わなかったため、科学研究費の執行を 1 年延長していただき、報告書のとりまとめを行った。またこの研究成果をもとに、様々な機会に研究発表を行った	(1) 口頭発表:「ヘーゲルの見た絵画 19 世紀初頭における絵画作品の〈移動〉とヘーゲル『美学講義』」平成 30 年 5 月 26 日 第 38 回法政哲学会大会 (法政大学市谷校舎) (2) 口頭発表:「19 世紀初頭のヨーロッパにおける革命と戦争と芸術 (その 1) 王侯のコレクション・教会の美術品・個人のコレクションから 国民国家の財産としての近代的美術館へ」平成 30 年 10 月 13 日 NPO 法人頸城野郷土資料室主催「くびき野カレッジ天地びと」第一七期 (町屋交流館・高田小町)

		<p>(3) 口頭発表：「19世紀初頭のヨーロッパにおける美術館の形成とナポレオン戦争」平成30年11月3日 国際地域学研究会第9回研究大会（新潟県立大学）</p> <p>(4) ポスターセッション：「Kunstkammerから公開の美術館へ：美術館における歴史的展示とフランス革命」平成30年11月3日 国際地域学研究会第9回研究大会（新潟県立大学）</p>
--	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 30 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石塚 正英

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 ★地域史・地域文化</p>	<p>以下のフィールド調査ほかを行った。</p> <p>★〔調査〕婆相天資料・山岡神霊位（上越市寺町3、妙国寺）見学・調査、2018.04.13</p> <p>★〔調査〕乳母嶽神社・諏訪社（上越市茶屋ヶ原）見学・調査、2018.04.14</p> <p>★〔講演〕三和地域歴史文化の玉手箱、三和まなびの会主催公開講座、上越市三和区コミュニティプラザ、2018.08.26</p> <p>★〔講演〕川上善兵衛による放射状道路建設の意義、日本ワインぶどうの父川上善兵衛生誕 150 年記念、川上善兵衛を語る会、2018.10.27.</p>	<p>以下の文書を発表した。</p> <p>★〔エッセー〕地域文化的沃土—頸城野: 丝路尽头的遗产(地域文化の沃土—シルクロードの果てに遺産あり)、JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)発行『客観日本』、2018.02.01</p> <p>★〔エッセー〕地域文化的沃土—頸城野: 神轿頂究竟是宝珠还是凤凰?(地域文化の沃土—神輿のてっぺんは宝珠か鳳凰か?) 『客観日本』03.26</p> <p>★〔エッセー〕古塔屹立1300年, 建筑技术延续至今(現代から未来に生き続ける伝統技術) 『客観日本』、2018.04.10</p> <p>★〔論説〕造語「パトリオフィル(愛郷心, patriophil)」の解説、頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Forum26、2018.06</p> <p>★〔論説〕岡倉天心「アジアは一なり」のパトリ的な意味、頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Vol.1/No.2、2016.04</p> <p>★〔著作〕地域文化の沃土 頸城野往還、社会評論社、2018.06</p>

<p>【くびき文化に関係しない研究】</p>	<p>以下のフィールド調査ほかを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★〔調査〕埼玉県毛呂山町の勝軍地藏・盃状穴ほか調査、2018.03.11 ★〔調査〕埼玉県富士見市の水光山大應寺・水宮神社ほか神仏混淆事例調査、2018.04.08 ★〔講読〕南方と柳田を魅了したフレイザー：フレイザー『金枝篇』を読む(1)、NPO 法人頸城野郷土資料室主催「くびき野カレッジ天地びと」第16期第1講、2018.04.28 ★〔講座〕自転車という技術文化、NPO 法人頸城野郷土資料室主催「くびき野カレッジ天地びと」第16期第5講、2018.06.09 	<p>以下の文書を発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★〔著作〕マルクスのフェティシズム・ノート—偉大なる、聖なる人間の発見、社会評論社、2018.06 ★〔エッセー〕ビブリオ・フィル：若き日の読書ノート1968、頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Forum32、2018.09 ★〔エッセー〕歴史限定的概念としての政治政党—結社と政党の相違—、世界史研究論叢、第8号、2018.10 ★〔論説〕マルクス左派の超家族論、季報唯物論研究、第145号、2018.11
------------------------	--	---

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 30 年度学術研究概要報告

研究者氏名 唐澤 太輔

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 くびき文化を含む「裏日本」文化の研究</p>	<p>① 2017 年末にフィールドワークを行った白山(及び白山比咩神社)を中心に、山の女神と女人禁制に関する研究を行った。特に、白山比咩大神と同一視される菊理媛神に関して『記紀』からその姿を捉え直し、この世とあの世をつなぐ者としての「シャーマンの要素」を持つ神であることを浮き彫りにした。また古来、なぜ聖山へ女性が入ることが禁じられてきたかについて、仏教的観点・神道的観点・道教的観点から考察を行った。</p> <p>② 白山神社の伝播と分布について研究を行った。各地の白山神社の数やオシラサマにまつわる祭祀、さらに被差別部落の分布などを調査した。そして「弾左衛門系白山信仰」「イタコ系白山信仰」「純粹白山信仰」の三つに分類し、それぞれの白山信仰の特徴などについて考察を行った。</p>	<p>〔公開講座〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くびき野カレッジ天地びと「裏日本」文化⑩—白山・山の女神・女人禁制—(2018 年 8 月 25 日)、「裏日本」文化⑪—白山神社の分布と弾左衛門—(2018 年 11 月 10 日) <p>〔連載〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・web 連載(月刊)：雑誌『ロゴスドン』「裏日本」文化、第 37 回(2018 年 4 月)～第 45 回(2018 年 12 月)。http://www.nu-su.com/seimei.html 第 37 回：オシラ遊び、第 38 回：菊理媛神、第 39 回：山の女神、第 40 回：女人禁制、第 41 回：白山信仰①、第 42 回：白山信仰②、第 43 回：白山信仰③、第 44 回：白山信仰④、第 45 回：白山信仰⑤ <p>〔新刊紹介〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石塚正英『地域文化の沃土 頸城野往還』(社会評論社 2018 年)の紹介記事(『頸城野郷土資

		料室学術研究部研究紀要』Forum27 頸城野郷土資料室 2018 年 6 月)
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>仏教、文化人類学に関する研究(南方熊楠研究)</p>	<p>① 龍谷大学世界仏教文化研究センターにおいて、南方熊楠の思想について、仏教学及び文化人類学的な視点から研究を行った。今年度は、特に、熊楠の夢に着目し、ユング心理学を援用しながら考察を行った。熊楠が夢の記録を通じて考えようとしていたことは、ユングの思想と極めて似ている。しかし、両者の直接的な接点はない。これらの事実を明示した上で、熊楠がどのような言葉と概念を用いて、いわゆる「普遍的(集会的)無意識」について考えようとしていたかについて研究を行った。</p>	<p>【講演・発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「南方熊楠は「猶太教の曼陀羅」で何を表現しようとしたか—セフィロトの樹との比較—」(第 45 回比較思想学会大会 2018 年 6 月) ・「南方熊楠の夢思考—開かれる全体性—」(下北沢ダーウィンルーム 2018 年 7 月) ・「南方熊楠の夢思考Ⅱ—死者との対面—」(下北沢ダーウィンルーム 2018 年 8 月) ・「目と耳と薄い世界」(reading club vol.2「熊楠とアート」第 5 章、藤本由起夫氏との対談 ART HOSTEL kumagusuku2018 年 10 月) ・「夢と創造性：南方熊楠の超域的パースペクティブ」(複合芸術会議 2018: 仙台セッション、秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科 2018 年 11 月) <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「虚空と風—南方熊楠の「場所」をめぐって—」(『哲学の戦場』那須政玄・野尻英一編、行人社 2018 年 8 月) <p>【書評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『熊楠と猫』(杉山和也・志村真幸・岸本昌也・

		<p>伊藤慎吾編、共和国 2018 年 6 月)</p> <p>〔その他〕</p> <p>・ドキュメンタリー映画『太陽の塔』インタビュー出演(関根光才監督『太陽の塔』制作委員会、パルコ、スプーン 2018 年 9 月)</p>
--	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 30 年度学術研究概要報告

研究者氏名 黒木朋興

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	特になし	特になし
【くびき文化に関係しない研究】 民俗学関連	埼玉県秩父地方の札所と石仏に関するフィールドワーク 秩父在住のアーティスト笹久保伸氏への聞き取り調査	・「絵画と幾何学 - 進歩の概念を巡って -」, 東京電機大学, 『東京電機大学総合文化研究』 第 15 号.

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 30 年度学術研究概要報告

研究者氏名 古賀 治幸

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 くびきの文化関連 ・直江津プロジェクト関係</p> <p>・歴史知研究会</p>	<p>1) 直江津プロジェクト（東京） ・平成 30 年第一回会合（2018 年 3 月 16 日）：『日本海沿いの町 直江津往還』の東京新潟県人会館における展示の契約更新手続きと新年度の活動方針に関する打ち合わせ。</p> <p>2) くびき野カレッジ（資料調査等） ・資料収集（6 月 22 日）：電信創業の地（神奈川県横浜）、前島密墓所（神奈川県逗子） ・資料収集（9 月 7 日）：郵政博物館（東京都墨田区） ・資料収集（9 月 22 日）：郵政博物館（東京都墨田区）</p>	<p>[報告] くびき野カレッジ―天地びと―第 7 講 直江津往還補説 7－高田直江津全国往来：道の近代化と電信網の形成・前島密―（7 月 14 日）</p> <p>[報告] くびき野カレッジ―天地びと―第 2 講 直江津往還補説 8－高田直江津全国往来：近代の道と郵便網・前島密―（10 月 13 日）</p> <p>[報告] 石塚正英『地域文化の沃土・頸城野往還』合評会コメント</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 歴史学関連</p> <p>・ロシア、ソ連史関係</p>	<p>・近現代史研究会開催 ・日本西洋史学会参加（広島）</p> <p>・工業化における製鉄所関連の資料収集（北九州市八幡）</p>	

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 30 年度学術研究概要報告

研究者氏名 真野俊和

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 論文紹介とコメント</p> <p>学術著作の方法論的検討</p> <p>近世山伏道中記の読解・検討</p> <p>祭の作劇術論的研究</p>	<p>石本敏也「十日町市峠の秋祭礼―農業環境の変化と祭日の移動―」 変化する「農業環境」をめぐる覚え書きを兼ねて」</p> <p>石塚正英著『地域文化の沃土 頸城野往還』（社会思想社 2018 年）を対象とする検討</p> <p>野田泉光院『日本九峰修行日記』の読解・検討 講義案の作成・実施</p> <p>講義案の作成・実施</p>	<p>『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』（オンライン・ジャーナル)Forum24 2018 年 3 月 12 日 「論文紹介：石本敏也『十日町市峠の秋祭礼―農業環境の変化と祭日の移動―』 変化する「農業環境」をめぐる覚え書きを兼ねて」</p> <p>『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』（オンライン・ジャーナル)Vol.3/No.5 2018 年 9 月 26 日 「地域文化誌叙述のためのモデル論―石塚正英著『地域文化の沃土 頸城野往還』を素材に一」</p> <p>くびき野カレッジ」にて以下の連続講義 ⑦2018 年 1 月 27 日 ⑧2018 年 4 月 28 日 ⑨2018 年 8 月 25 日</p> <p>「くびき野カレッジ」にて講義</p>

柳田国男『明治大正世相篇』の読解・検討	講義案の作成・実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2018年4月14日 「くびき野カレッジ」にて講義 ・ 2018年7月28日
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>文部科学省科学研究費研究プロジェクトに参加</p> <p>四国遍路習俗の総合的性格に関する検討</p>	<p>文部科学省科学研究費補助金による研究プロジェクト「民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究」(基盤C JP16K03229 研究代表者:石本敏也聖徳大学准教授。3ヶ年を予定)に研究協力者として参加。なお真野は、四国遍路巡拝記に関する研究を計画している。</p> <p>四国4県によって設置される、「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会「普遍的価値の証明」部会における研究会に出席し、検討と議論に参加した。</p>	<p>以下の日程でミーティング実施 (於・聖徳大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018年8月27日 <p>以下の日程で会議実施 (於・香川県庁)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018年8月22日 ・ 2018年12月17日

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 30 年度学術研究概要報告

研究者氏名 瀧田 寧 (平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日)

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 ・直江津時代のダン一家を巡る人々</p>	<p>昨年の頸城野郷土資料室併設学園「くびき野カレッジ天地びと」第 14 期・第 10 講（於上越市「町家交流館・高田小町」、平成 29 年 8 月 26 日）では伊藤一隆をテーマにした講演を行い、本年の第 15 期・第 9 講（平成 30 年 1 月 13 日）では、一隆の次女・松本恵子についての講演を行った。その後、両講演の講演録を作成しようとしたところ、一隆の柏崎時代についての調査が不足していることに気づいた。そこで本年 2 月、柏崎市の図書館で地元紙に掲載されている一隆の記事を収集し、それも踏まえて右欄記載の〔資料紹介〕を作成した。ただ、柏崎の資料をもとに大幅な加筆を行った結果、松本恵子に触れることが難しくなってしまったので、恵子については別の機会にあらためて詳しく取り上げることにしたい。</p>	<p>〔資料紹介（単著）〕 1) 伊藤一隆—エドウィン・ダンが越後に連れてきた偉才 頸城野郷土資料室（発行）『頸城野郷土資料室学術研究部 研究紀要』第 3 巻第 2 号、1-18 頁、平成 30 年 3 月 1 日</p> <p>〔エッセイ（単著）〕 1) 郷土史探究を通じた出会い 東京新潟県人会 『新潟縣人』平成 30 年 4 月号 [第 764 号]、33 頁（平成 30 年 4 月 1 日刊行） <概要> 『日本海沿いの町 直江津往還—文学と近代からみた頸城野』（社会評論社、2013 年刊）の第三章「ダン一家と直江津」の筆者として、本章を執筆する過程で出会った人々やテーマなどについて、紹介した。</p>

<p>・『直江津往還』の全国展開の試み</p>	<p>本年も、東京新潟県人会の会報に『直江津往還』に関するエッセイを書かせていただくことができた。また、読売新聞北海道版の連載記事〈北海道 150 年〉では、直江津時代のエドウィン・ダンについて取材協力を行った。それ以外にも、ダンやダン一家について、取材協力を依頼されることがある。そうした依頼には、今後も札幌市の「エドウィン・ダン記念館」と連携をとりながら、積極的に応じていきたいと考えている。また、ダン一家を巡る章以外でも、『直江津往還』には全国展開できそうな話題が多い。本書の執筆にあたった直江津プロジェクトの他のメンバーと相談しながら、今後どのような試みが可能であるか、見いだしていきたい。</p>	<p>〔講演（単独発表）〕</p> <p>1) エドウィン・ダンにゆかりの人々 (2) —伊藤一隆の次女・松本恵子について— 頸城野郷土資料室併設学園「くびき野カレッジ天地びと」第 15 期・第 9 講、於上越市「町家交流館・高田小町」平成 30 年 1 月 13 日 〈概要〉 八千浦村の尋常小学校、直江津の高等小学校、そして高田高等女学校に学び、児童文学の翻訳者として活躍した松本恵子の生涯を紹介した。</p> <p>〔取材協力、情報提供〕</p> <p>〈北海道 150 年〉先人探訪（開拓・農業）：エドウィン・ダン—酪農の父 名馬産地に礎 読売新聞北海道支社発行、2018 年 6 月 26 日 「読売新聞」（第 51171 号）[北海道版] 33 面 掲載の上記の記事に対する取材協力、情報提供 〈概要〉 北海道では「酪農の父」として知られるエドウィン・ダンが新潟県の直江津では石油事業で活躍していたことが読売新聞北海道版の記事で取り上げられることになり、直江津時代の</p>
-------------------------	---	---

		<p>ダンについて、情報提供及び取材協力を行った。</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 ・「伝承」に対する態度 —ロックとモンテーニュを比較して—</p>	<p>本年の総合社会科学会の大会において右欄に記したタイトルで発表を行った際には、会員の方々から貴重なご意見やご質問をいただいた。現在は、それらを踏まえてさらに考察を進めているところである。</p>	<p>〔学会発表（単独発表）〕 ロック哲学における「伝承」の問題 —モンテーニュの『エッセー』と比較して— 総合社会科学会・第20回大会、於日本女子大学目白キャンパス、2018年7月1日</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 30 年度学術研究概要報告

研究者氏名 田村 敬

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	新潟県及び頸城野地域における、近世・近代史、民俗関連の文献調査や査読の実施	特になし
【くびき文化に関係しない研究】 1 埼玉県蓮田市の文化財に関する調査研究 2 主に埼玉地域を中心に関東地域における近世農村史の調査研究 3 近世・近代の地方芝居の調査研究	1 については、蓮田市で行われた3月と10月の文化財保護審議委員会に出席し、当該地域の文化財に関する討議を実施。 2、3については、関連文献の査読及び埼玉県立文書館にて県内の文書の閲覧および解読・検証等の実施。	特になし

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 30 年度学術研究概要報告

研究者氏名 長谷川 和子

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	<p>3月 直江津プロジェクトメンバーミーティングに参加。 メンバーの活動報告、研究進捗状況などを聞く。</p> <p>7月 上越市産業立地課へ『直江津往還』を一冊送付。 5月に上越市が日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に認定されたことから、事前に担当者へ『直江津往還』の紹介をした。</p> <p>11月 ・高田高等学校校友会東京支部支部会報『雪椿』42号に「インド人外交官夫妻の上越訪問記（1975年10月）が掲載される。</p> <p>同月 ・43年目に当たる今年、高田を除く、五智、春日山を中心に再度ほぼ同じ観光地を訪問。当時よりかなりきめ細かに整備されていることを実感（ボランティアスタッフの頑張りにも触れることができて良かった）。</p>	<p>外国人客を実家（上越市上五貫野）に招待したときの概要を紹介。</p>

	<p>通年 フォーラムに提出する原稿の執筆 「サンドラ・D. オコナー（米国連邦最高裁判所初の女性判事）～その人と生き方」 （トランプ政権のもと、中道保守のケネディ氏が辞任。新たに最高裁判事カバノー氏が任命された。保守派に属する。それをふまえ、オコナー氏が保守中道派としてアメリカ社会へ与えた影響についても若干の考察を行う。）</p>	
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・（1）1月 流通経済大学に出講 ・（2）（居住する地域の）本牧中学校コミュニティハウス歴史講座を月一回のペースで受講） <p>1月～9月 『歴史講座』講師：香川正彦先生 <江戸時代通史> 幕藩体制（行政司法）、御三家、御三卿 お家取り潰し（赤穂 浅野家） 武士の暮らし 町民の暮らし 五街道の地理的位置など</p> <p>－歴史講座に関連して、城下町の川越、主要街道ではないが、宿場町の大内宿などを見学－</p> <p>10月～12月 『新・歴史講座』講師：横浜市八聖殿郷土資料館館長 相澤竜次氏</p> <p>① 本牧の地政学的な位置などの詳細解説。</p>	<p>2017年に引き続き『グローバルビジネス英語』についての講義を行った。</p>

	<p>② 江戸時代からの漁師町・本牧の漁師たち（港、今町湊との類似点、異なる点など興味深かった）</p> <p>③ 年末正月の行事など、民俗学的な考察。 特に神社（鳥居の形、狛犬の種類、参拝の仕方など）</p> <p>ー自身の子供時代は、年末の煤払いから始まり、大掃除、年越し行事、などなど伝統的な習慣が守られていたことを実感したー</p>	
--	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 30 年度学術研究概要報告

研究者氏名 米田 祐介

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 三島由紀夫と小川未明	我が国では未明と三島の関係についての研究は皆無とっていい。だが、「年譜」によれば、三島は昭和六年、学習院初等科に入学した頃より未明を愛読しており、『決定版三島由紀夫全集 26』所収の「童話三昧」で未明の名をあげ次のように語る。「未明の童話ぐらゐわたしを悲嘆に沈めたものはない。……未明の童話はいきなり自分の生活にとびこんで来て、それだけ深く喰い入るのだつた」。事実、三島の初期の短編小説には童話的・寓話的作品が多い。幼いころの童話経験が三島の〈出発点〉になっているのではないかという問題意識のもと、その後の三島文学への影響を検討している。	
【くびき文化に関係しない研究】 エーリッヒ・フロムの宗教思想	1) 平成 30 年度は、右拙稿が雑誌に掲載された。フクシマとサガミハラに光をあて、そこから炙り出されるマジョリティの「内なる優思想」を検討課題とし、それへの対抗軸としてフロムの存在論を提示したものである。 2) だが、注意が必要なのは、フロムの存在論が何を基盤にしているかである。絶えず聖句の引用を忘れなかったフロムが〈在る〉という場合、それはユダヤの伝統に根差した生活感情が基盤となっている。この程上梓された清真人『フロムと神秘主義』はフロム研究史において画期となるものであり、目下、これをふまえフロム思	「〈ここ〉からはじまる——フクシマとサガミハラが『身体』に投げかけるもの」総合人間学会編『総合人間学研究』VOL. 12（平成 30 年 5 月）

	想における宗教的基盤の再読から彼の存在論の再構成を試みている。	
--	---------------------------------	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 30 年度学術研究概要報告

研究者氏名 茂木 謙之介

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	なし	なし
【くびき文化に関係しない研究】 ★地域史・地域文化	天皇制と地域社会に関連する研究を進捗させ、特に島嶼部における天皇の表象研究に着手した。	○著作・論文 ・「貞明皇后の思考と行動」『皇后四代の歴史』吉川弘文館、2018年6月、41-58頁 ・「〈宗教〉で〈幻想〉を語る—雑誌『幻想文学』研究序説—」『Juncture』第9号、2018年3月、118-130頁 ・「1980 - 90年代『SPA!』にみる〈オタク論〉と〈宗教〉言説—「宗教とサブカルチャー」論再考のために—」『文明研究』第36号、2018年3月、61-78頁 ○学会、研究会報告 ・「「島嶼部と天皇制」序論—1994年天皇皇后小笠原諸島訪問を手がかりに—」（象徴天皇制研究会、2018年7月1日） ・「〈聖者〉としての天皇・皇族—戦前期におけるメディア表象の検討から—」（アジアの聖

		者に関する研究会、2018年3月21日) ・「昭和戦前戦中期における皇族表象と宮内省」(千代田図書館「内務省委託本」研究会、2018年3月12日)
--	--	--

<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知」について考える <p>・国立歴史民俗博物館見学 平成 30 年 5 月 27 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この課題では、現代に生活するひと（我々）にとっての「知」の価値や、「知」との相対し方を考えることを目的とした。 <p>主にブルデューBourdieu,Pierre（1930-2002）の提唱した「ハビトゥス」「文化資本」といった概念をヒントとし、石塚正英 2018「歴史知と生活世界 持続可能な学問論を求めて」を参考とした。</p> <p>→「発表状況」参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に第 4 展示室（民俗）を見学し、見学記を投稿した。 <p>→「発表状況」参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・くびき野カレッジ天地びと 第 17 期カリキュラム 平成 30 年 9 月 8 日 第 2 講にて口頭発表 「居場所・拠り所としての『知』を考える」 <ul style="list-style-type: none"> ・山田彩加 2018 「国立歴史民俗博物館・宇出津あばれ祭りの展示を考える 暴れる神輿からフェティシズムへの連想」 （『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』フォーラム）
---	--	--